

誠文堂新光社

「スイッチバック大全」

ID111378556

日本の“折り返し停車場”140ヶ所の魅力と歴史を全紹介

令和6年(2024)8月16日発行 編著：江上英樹、栗原景

「スイッチバック大全」序より

勾配を克服する鉄道技術の一つとして知られるスイッチバック。同様の意図を持つループ線やラック式と比べると、特に日本で特徴的に用いられたシステムでもあり、大小含めると国内に140ヶ所以上を見出すことができる。

しかし昨今の技術の進歩、土木車両性能の向上により、今や絶滅の危機に瀕している。

本書は、スイッチバック研究の決定版として、その魅力を豊富な写真とデータ類で紹介しようと試みるものである。

本書に紹介された一つ「北宇智」のスイッチバックの説明に当今昔写真 WEB の写真が紹介されています。

X型 北宇智 奈良県 和歌山線

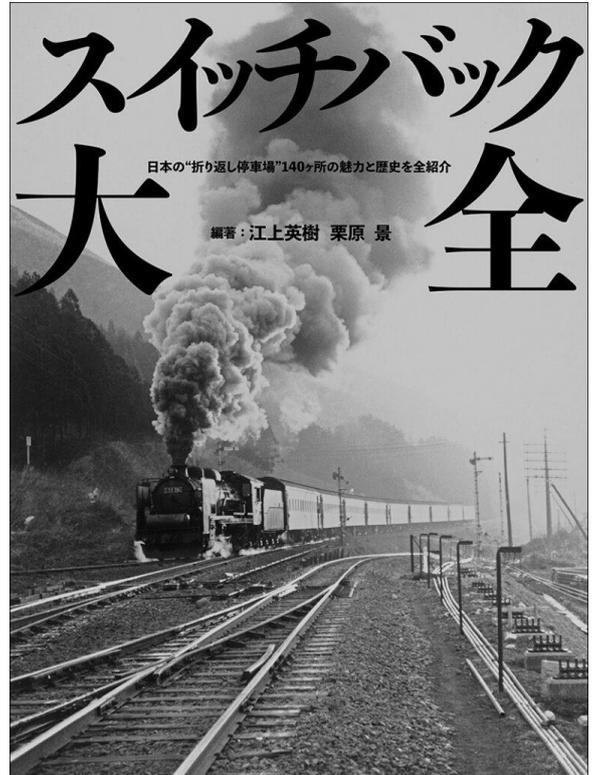
明治29年(1896)南和鉄道 葛～五条開業時設置
平成19年(2007)廃止

和歌山線の吉野口から五条にかけて短い山越え区間があり、その途中にスイッチバック構造の北宇智駅があった。施設されたのが蒸気機関車に頼る明治期であったので、勾配自体は最大で20%以下だった。当初は通過不能の構造で、水を補給し、火床を整え、カマの圧力を上げるためのものだった。蒸気機関車にとっては勾配走行中の適度な停車が必須だった。

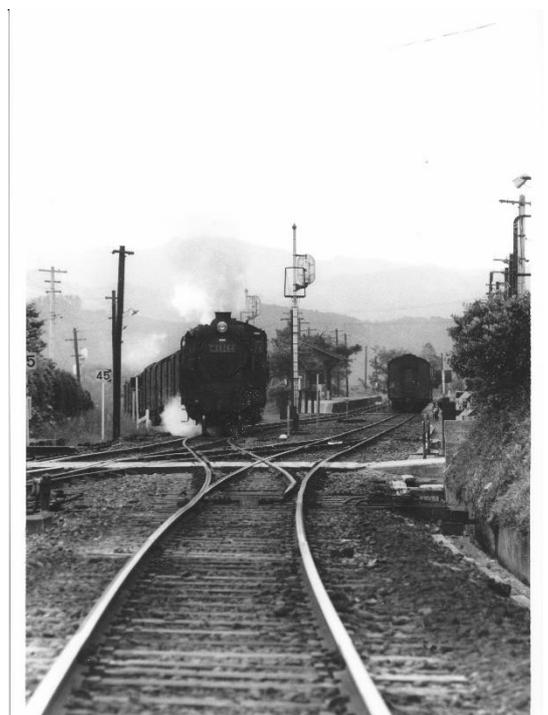
また、本線とのクロッシング部分に踏切がある。通行者には遮断時間が長かった。

昭和55年(1980)の電化、その後貨物が全廃となっても、当駅のスイッチバック運転は続けられ、関西では最後まで残った。

平成19年(2007)スイッチバック廃止(関西からスイッチバックがなくなった)



表紙



下り列車と北宇智駅で交換する C58 牽引の上り貨物列車

昭和43年(1968)年5月 撮影：天白逸郎氏